

発足の背景

- D X 推進の現状と課題認識については、イレギュラー時の迅速な顧客対応を含む業務や二次交通への接続の効率化の必要性、空港での申請手続き等の**業務のデジタル化による効率向上へ期待する声**が上がった。
- 一方で**デジタル化に限らず**、航空機運航や空港運用、二次交通に関する**幅広い気づきや提案**もあった。

取組の方向性

検討会の議論での個別の取組アイデアの中から**先行的にどのように実施に繋げるか**を議論し、「**小さくても嬉しい事を作っていく**」という考えのもと、試行、実証といったステップも経ながら、具体的な実施や取組の合意形成を行う。
議論より出てきた各種テーマやアイデアの中から、実現のための必要性や熟度が比較的高いと思われるテーマについて関係者による実務的な検討を進めるチームを作り、**立場にとらわれず実現に向けた議論**を進める。

個別チームの発足

- **リアルタイムな情報共有の改善**（※**旅客情報の共有可能範囲**を含む）
 - ・「共有が必要」「共有が可能」な情報の把握
 - ・各ステークホルダー間での情報共有実現に必要な手段の検討
- **申請手続きのデジタル化**
 - ・手続きに関するデジタル化を通じた生産性向上（省力化、ペーパーレス）
 - ・現状の課題整理、具体的な効果の検証
- **主に地方空港における業務効率化・負担軽減**
 - ・主に地方空港における既存の業務、現状の課題、必要な効果等を共有し、課題解決へ可能性のある手法（技術、アイデア、仕組み）を提案
 - ・多様なメンバーで、（費用を常に意識しながら）導入可能性について意見交換